

いしづち

愛媛労災病院広報紙第11巻第3号

（通巻第66号）

2013年10月5日発行

発行人：院長代理 宮内文久

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針
1. インフォームドコンセントの実践
 2. 安全かつ良質な医療の提供
 3. 勤労者医療の推進



総診療科を御活用ください！ 2

南4病棟紹介 3

第14回 がんのリハビリテーション
研修会に参加して 3

地域医療連携室意見交換会を終えて 4

新人ドクター紹介 4

7月10日出前講座に行ってきました 4

総合診療科を御活用ください！

総合診療科部長 味 生 俊

総合診療科とは？

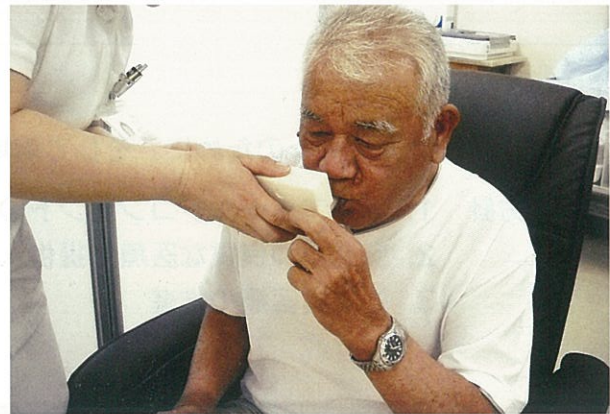
Wikipediaには、「医療における診療科のひとつで、あまりにも専門化・細分化しすぎた現代医療の中で、全人的に人間を捉え、特定の臓器・疾患に限定せず多角的に診療を行う部門。また、外来初診の「症状」のみの患者に迅速かつ適切に診断をつける科でもある。」と書かれています。その必要性から、全国各地の大学病院や拠点病院を中心に1980年頃から相次いで創設されるようになりました。まだまだ認知度は低いのですが、2010年からNHKで「総合診療医ドクターG」という番組が放映されるようになって、少しは知られるようになりました。

当院では、2006年4月に新設されたばかりの、まだ歴史の浅い診療科です。対象患者は癌手術後のフォローアップ、がん化学療法、軽度の抑うつ・認知症・自律神経失調症、あるいは専門科を受診するほどでもない程度の内科的疾患の患者さん等々と多岐にわたります。また、それとは別に後述の専門外来も実施しています。さらに、今後は超高齢化社会を迎えるに当たり、増え続けることが予想される末期がん患者の受け皿の一つとしての緩和ケアにも力を入れていこうと考えています。

さて、総合診療科の活用法について少しばかり述べてみたいと思います。1. どの科に行けばいいのかわからない方、2. 複数の症状がある方、3. 複数の科にまたがる病気が疑われる方は、是非総合診療科を受診してみてください。必ずや満足のいくアドバイスが得られるはずです。次に、当科で実施している専門外来を紹介します。



呼気中一酸化炭素測定器



禁煙外来

甲状腺外来

甲状腺と副甲状腺の疾患全般の診断と治療を専門とする外来です。

対象疾患は

1. 甲状腺ホルモンの異常をきたす疾患: パセドウ病、橋本病など
2. 炎症性疾患: 亜急性甲状腺炎、急性化膿性甲状腺炎など
3. 甲状腺腫瘍をきたす疾患: 癌、良性腫瘍(腺腫、腺腫様甲状腺腫など)
4. 副甲状腺機能亢進症(原発性、二次性)
5. 副甲状腺腫瘍: 良性及び悪性
6. その他頸部腫瘍(リンパ節腫脹など)

禁煙外来

喫煙は医学的・保健衛生学的に見て「百害あって一利なし」であることは、万人の認めることとなってきつつあります。当院も2013年4月から「敷地内禁煙」が義務づけられ、それに伴い「禁煙外来」を開設しました。「ニコチン依存症」の診断基準を満たす方のうちタバコを止めたいけどなかなか止められない方が対象となります。

主な診療内容は、医師や看護師などによるカウンセリングと禁煙補助剤(ニコチンパッチやチャンピックス)の処方です。治療期間は10～12週間で健康保険が適用されます。

南4病棟紹介

南4病棟

南4病棟は、内科・泌尿器科・整形外科・総合診療科の混合病棟です。

主な疾患と治療は、内科は主に糖尿病の教育入院、血液疾患の化学療法、誤嚥性肺炎患者を受け入れ、泌尿器科は、前立腺や膀胱腫瘍の患者にパスを中心とした経尿道的内視鏡手術を行っています。また、尿管結石に対して対外衝

撃波結石粉碎術を積極的に行っています。総合診療科は、甲状腺の手術患者が多く、整形外科では、大腿骨頸部骨折、上・下肢の骨折、脊椎疾患を中心とした高齢の患者が入院しています。

各科ともに高齢者・認知症患者が増加しています。看護師は、早期に社会復帰できるようMSWやリハビリ担当者、地域の介護サービス事業者と連携を図り、退院調整に力を入れています。また、思いやりのある看護をめざし、スタッフみんなで頑張ります。



第14回 がんのリハビリテーション研修会に参加して

言語聴覚士 野村 裕子

この研修会の参加条件は、医師、看護師、リハビリスタッフ2名の計4名が2日間の研修を受講することであったため、今回は味生医師、三浦看護師、近藤主任作業療法士と参加させていただきました。

講義内容は、医師や理学療法士などによる「周術期リハビリテーション—患者評価のポイントとリハビリテーションの実際」、「化学療法・放射線治療の副作用とリスク管理」など座学中心の講義で、みっちりプログラムが組まれていたので肩こりや腰痛との闘いでもありました。しかし、普段は目にする機会が少ない他職種の方の患者さんに対するアプローチ方法を知ることができ、改めてチームアプローチの大切さを実感することができました。また、グループワークや職種別交流会などの意見交換ができる場も設けられており、貴重なアドバイスをたくさんいただきました。

最後に、今年9月から「がん患者リハビリテーション料」が算定できるようになりました。言語

聴覚士としては、がん患者の摂食・嚥下障害やコミュニケーション障害に対して、摂食・嚥下訓練や発声訓練、失語症訓練などで関わっていけるのではないかと考えます。もちろん、言語聴覚士のみでは患者さんに対してフォローが十分できないため、他職種と連携したチームアプローチができるように取り組んでいきたいと思っています。

みなさん、ご協力よろしく申し上げます。



地域医療連携室意見交換会を終えて

地域医療連携室看護師 鈴木美鈴

6月3日に川東地区の居宅支援事業所や施設の代表11部署の21名の方に参加していただき「地域医療連携室意見交換会」を開催しました。

1時間という短い時間ではありましたが、参加者からは、「連携がスムーズにいかない」「退院の前のカンファレンスの必要性」「退院調整のシステム作り」「タイムリーな情報共有が必要」など、現在の問題点や要望について数々の率直な意見をいただきました。問題点の指摘だけでなく、「今後も意見交換会を継続して欲しい」「症例検討を行ってはどうか」など、前向きな意見も数多くいただきました。

参加者からいただいた意見を参考に、病院(特に看護部)としてスピーディーな対応をするためにどのようにすればよいのか検討会を行いました。検討会結果は、出来るだけ早期に形にして還元したいと思います。さらに、地域の方々と病院が一つの医療

チームと考え、意見交換会だけでなく、何かあればその都度、声をかけ合うことが出来るような雰囲気作り、窓口の対応に心掛けたいと思います。

今後も、より一層活発な意見交換が出来るように、この会を継続していきます。多くの居宅支援事業所や施設の方々の参加をお待ちしています。継続することにより地域の医療の活性化、連携強化に繋がっていかれると思います。



新人ドクター紹介

前田 崇

役職：整形外科副部長

経験年数：10年

専門分野：整形外科一般

外来診療日又は主な業務：

火・金曜日午前中

愛媛の医療に少しでもお役に立てればと思います。皆様に信頼されるよう精一杯がんばります。



7月10日 出前講座に行ってきました

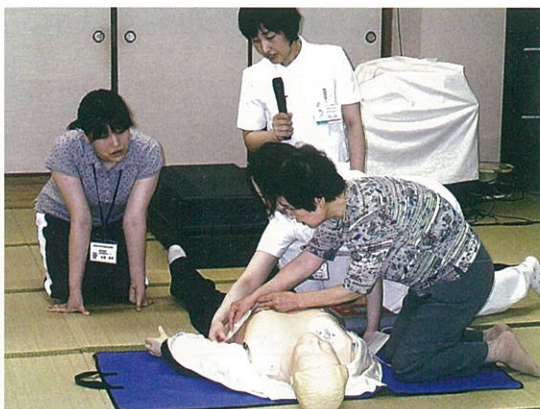
ICU 師長補佐 長野綾子

7月10日新居浜市社会福祉協議会の依頼を受け、川東高齢者福祉センターで出前講座を開催しました。出前講座の内容は、家庭での応急処置、心肺蘇

生法の講義と意識を失った人への対処の仕方やAEDの使い方を演習しました。

参加者は80歳から90歳代の30名でした。参加者の中から、6名の方に心臓マッサージやAEDの操作を体験していただきました。参加者の方の中には、「私、労災病院にかかるとんよ。今日はありがとう」と言って下さる方もおり、終始和気あいあいとした雰囲気の中で講座を終えることができました。

労災病院では様々な出前講座があり、今後も出前講座が地域の方と労災病院を繋ぐ役割を担っていただけたいと感じました。希望する内容があればお気軽にご相談下さい。いつでも何処へでも出前できるようにしていきたいです。



！広報紙編集メンバー 委員長: 稲見精神科部長 委員: 木戸副院長、医局長(都志見外科部長)、看護副部長、師長1名、師長補佐1名(北6土肥)、小野薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、伊藤臨床検査技師、鈴木管理栄養士、総務課長、庶務係長、世一庶務係員、地域医療連携室員